

第6次都留市長期総合計画前期基本計画行政評価シート

事業名	学生アシスタント・ティーチャー事業		款項目	09-01-03		評価責任者	清水 敬	
担当部	教育委員会	担当課	学校教育課	担当	学校教育担当	記入者	小澤 初美	
会計	一般会計	事業開始年度		法定根拠・法令等	学生アシスタント・ティーチャー配置事業実施要項			
事業実施方法	直接実施事業		←その他の場合の詳細					

1. 事業概要 (PLAN)

長期総合計画上の位置づけ	まちづくりの方向	Ⅲ	教育分野 輝かせます！学びあふれるつるのまち
	政策	2	生きる力を育む学校教育のまちづくり
	施策	1	★魅力ある教育環境の整備
対象者および対象物	※誰に対しての事業か。また、何に対しての事業か。 対象者：市内小中学校児童・生徒		
事業内容 手段・手法 ※随時追加	※どのような活動をする事業か。どのようなサービスを提供する事業か。 ・小中学校の放課後における小グループでの学習支援を中心とする活動（Aタイプ）・小中学校において、学力不振、不登校傾向、多動、障害等による困難をもつ子どもを対象に、個別的な支援や当該児童生徒のいる学級での補助的な活動（Bタイプ）		
めざす目的・成果	※対象がどのような状態になることを目指すか。 都留文科大学の教員志望の学生を「学生アシスタント・ティーチャー」として市内小中学校に配置し、子ども中心のきめ細かな指導を一層充実させるとともに、大学における教師教育の深化・発展を図る。		

2. 実施結果 (DO)

単位：円		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
事業費	予算現額[A]	5,610,000円	2,035,890円	2,123,128円			
	決算額[B]	1,970,593円	1,902,181円	1,996,192円			
	執行率[B]/[A]	35.1%	93.4%	94.0%			
	事業費詳細 (主な経費を3～5つ)	学生の各担当学校への旅費(電車賃)及びタクシー使用料 1,933,660円	学生アシスタント・ティーチャー事業旅費857,480円 学生アシスタント・ティーチャー タクシー使用料 948,000円	学生アシスタント・ティーチャー事業旅費600,560円 学生アシスタント・ティーチャー タクシー使用料 1,295,430円			
	財源内訳	国庫支出金					
		県支出金					
		地方債					
		その他特定財源		56,000円	78,000円		
		一般財源	1,970,593円	1,846,181円	1,918,192円		
	財源合計[C](=[B])	1,970,593円	1,902,181円	1,996,192円			
人件費	一般職員	32人日	825,309円	32人日	829,282円	32人日	831,676円
	対象外事業分		円		円		円
	嘱託職員	0人日	円	0人日	円	0人日	円
	対象外事業分		円		円		円
	臨時職員		円		円		円
	別担当職員		円		円		円
人件費合計[D]		825,309円		829,282円		831,676円	
総事業費[B]+[D]		2,795,902円		2,731,463円		2,827,868円	

■指標

指標名	内容説明	単位	単位	H27	H28	H29	H30	R1
配置者満足率	学生アシスタント・ティーチャー配置数	人	目標値		278.7	314.3	350.0	
			実績値	243.0	545.0	361.0	328.0	

3. 事業評価 (CHECK)

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
必要性 (市民ニーズに照らして市関与の必要)	5	5	5	
有効性 (事業実施に伴い成果が出てるか)	5	5	5	
効率性 (コストを低減し無駄なく実施してるか)	5	5	5	
公平性 (一部受益者のみでなく公益的か)	2	2	2	
達成度 (目標が実現できているか)	5	5	4	
平均得点	4.4	4.4	4.2	

自己評価

担当者として、左の必要性～公平性までの項目ごとに5段階で評価をしてください。

低い ← → 高い

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

■予算執行状況を踏まえ、現在の状況や問題点などについて、担当の所見を記入してください。

平成28年度	SAT事業は毎年学校要望人数と大学での参加者に差がある。そのため、大学において人数差を埋めるよう、学生への呼びかけが必要である。
平成29年度	SAT支援員を配置することで、参加する学生の指導体制が充実した。ただし、SAT参加者の減少や、学校要望人数と大学での参加者に差があるなど、大学において人数差を埋めるよう、学生への呼びかけが一層である。
平成30年度	今年度から都留文科大学の学校教育学科新設により、学生のSAT事業への参加が必修となった。それに伴い、小中学校において、参加希望者にバラつきが生じたり、交通費等の費用面の確保が難しくなる。

4. 今後の方向性 (ACTION)

どの方向性にするのか○を1つ付けてください	平成30年度予算に向けて			令和元年度に向けて			令和2年度に向けて			令和3年度に向けて		
	削減	維持	増加	削減	維持	増加	削減	維持	増加	削減	維持	増加
成果の方向性	拡大								○			
	維持	○			○							
	縮小											
具体的な事業費名							SAT活動の交通費等					

■上記の方向性にするための今後の手段手法を記入してください。

平成30年度予算に向けて	平成25年度より、都留文科大学の課程に「教職実践演習」科目が新設・必修化されたことで派遣数の増加が図られ、これまで以上に子どもたちに「きめ細かな教育」が実践できるものと期待しているが、大学におけるSAT活動への普及が一層求められる。ひいては、学生における「教育現場」への興味・関心や教職免許取得に対する意識の低下も考慮できるため、「教育現場」に対する意識向上を今後の講義や取り組みで図っていく必要がある。
令和元年度予算に向けて	参加する学生の人数減少がみられるため、大学におけるSAT活動への普及が一層求められる。ひいては、学生における「教育現場」への興味・関心や教職免許取得に対する意識の低下も考慮できるため、「教育現場」に対する意識向上を今後の講義や取り組みで図っていく必要がある。
令和2年度予算に向けて	学生のSAT事業が必須となったことで参加人数が増加し経費も増加が見込まれるが、教育現場でのきめ細かな指導を充実させるとともに、教員志望の学生が教育現場を経験することで教員に必要な資質能力に関する自信等に繋げる。

■事業評価・提案会を踏まえた事業の改善策及び今後の方向性

①学生のバラツキについて
現在SAT事業は、学校の受入数と大学の学生派遣数が一致していない。小学校については、受入数を増加している傾向があり、反対に中学校については受入数より下回っている現状である。今後、その差を埋めておくために適切な学生派遣をしていく。

②学生の意識向上について
SAT事業の質の向上のための取組として、学校及び学生間の連携を図る必要がある。SAT事業の質の向上のためには学生の意識向上が最優先であり同じ立場である学生同士が情報を共有し多方面からの視点を育み指摘し合うことで、教員が全て指摘しなければならないような負担が減ると考えるので学生の複数体制についても前向きに検討する。
【具体的内容】
①SAT事業の派遣校のバラツキという問題は、通勤する手段についてが一因である。学生は限られた時間の中で移動する必要があるためスムーズな移動方法を展開していかなければならない。電車だけではなくタクシーの数を拡充することで、学生が時間や手段を気にすることなく学校に行ける体制づくりをしていく。
②2人組若しくは3人組という複数体制はお互いの意見を共有・学習できSAT全体の質の向上につながると思われる。また、学生間で情報を共有することは教員の負担軽減にもつながるため、大学に複数体制の確保を提案していきたい。ただし学生と学校の担当教諭の打ち合わせ時間を確保することも学生のモチベーションの向上につながるためある程度の打ち合わせ時間の確保については引き続き検討する。また、アクティブラーニングは、新学習指導要領でも取り上げられている授業形態である。都留市の小中学校については公立の小中学校のため、学校によって学ぶ内容が異なることは望ましくはないが、道徳や総合、小学校の英語の授業でアクティブラーニングといった新しい授業形態を取り入れることを検討する。国際教育学科の学生が実際にアクティブラーニングを取り入れた英語の授業を実施することで、学生の英語力や意識の向上につながることはもちろん、児童・生徒の英語理解への手助けとなる。